



町では復興基本計画の改定に向けて、これまで、地域復興協議会、テーマ別分科会、復興戦略会議を開催し、そこで話し合われた意見をもとに復興計画の改定素案を作りました。さらに、より多くの町民の皆さまの意見を反映させるために、1月末から2月初めにかけてパブリックコメント(意見募集)を実施し、2月2日に住民フォーラムを開催しました。2月14日には第4回復興戦略会議を開き、委員から意見や提言をいただきました。これらの経過を踏まえて復興基本計画改定案をまとめ、3月定例議会に諮ります。

住民フォーラム

住民フォーラムでは約50名の町民が参加し、町側から復興基本計画改定素案を説明した後、予定時間を越えて活発な意見が出されました。主な質問や意見は次の通りです。

Q: 現計画の中に盛り込まれている「復興まちづくり創造おおつち」や「国際海洋研究都市おおつち」などのプロジェクトが改定素案から消えているのはなぜか。また、音楽を発表する場として施設を作ることをお願いしたい。包括ケアが出来る

「福祉の町大槌」というものも目玉として考えて欲しい。そのためには専門的、技術的な人材育成が必要である。福祉専門学校設置も検討して頂きたい。
A: 現計画の五つのプロジェクトのうち、四つについては今回のプロジェクトに吸収されている。音楽ホールについては教育文化基盤の取り組みの中で具体的に検討出来ればと思っている。地域包括ケアプロジェクトについては、住民と一体となって協力し合えるようなまちづくりをしていきたい。また、テーマ別分科会を継続し議論の場を設ける。その中でお話があった提案も検討していきたい。

Q: 人口の減少を示す「将来人口予測」は、統計に基づいた人口推移なのだろうが、基本計画では人口を維持、もしくは増加させていこうという意気込みを見せる意図があってもいいのではないか。
A: 基本計画は、人口維持や増加を目標とした計画なので、それが伝わるよう表現を工夫します。

Q: 町は仮設住宅やがれき処理場として使われている土地の跡地利用についてどのように考えているのか。
A: 町は仮設住宅やがれき処理場として使われている土地の跡地利用についてどのように考えているのか。

た。全部で26通の意見が寄せられました。一部を抜粋して紹介します。

【まちの将来像について】

・ 少子高齢社会で将来への維持管理費などを考えると「コンパクトな「まち」にすべき。
・ 大槌町は郷土愛を原動力とした「住民主体のまちづくり」を行います。人口流出の話はもうたくさん。大槌町は人口を減らさないためあらゆる戦略を立て、町の存続のために闘います。大槌町が持つ「郷土愛」を「原動力」に、「際立つ個性やパワー」を「武器」として、町の子孫や震災で亡くなった方々が喜んでくれるような新しい大槌町を築きます。

【復興計画改定の考え方について】

・ 被災した人が戻ってくる、というの甘い観測であり、流出した人たちは戻ってこないものとし、これ以上の人口流出を食い止める政策が必要なのではないか。

【自然環境基盤について】

・ 役場庁舎はもつとコンパクトな施設とし、絶対安全で機能する場所に作るべき。現在の施設は体育館も含め、健康増進センターやほかの機能を備えた施設として利用する。

・ 防潮堤の見直しについて(自然環境や景観に関する内容6件、費用

面に関する内容5件、安全面に関する内容7件、整備にかかる期間に関する内容4件)。

【社会生活基盤について】

・ 公営住宅に集会場を作ることのみを示しているように見えるが、ハード面のみならず、ソフト面(コミュニティをどのように育成するのか?)が重要であると考える。また、災害公営住宅内のコミュニティと元々の地域住民とのコミュニケーションとの融合を図る必要がある。

【経済産業基盤について】

・ 産業関係者の「ヨコの連携」を取るための施策が述べられていない。
・ 観光産業や6次産業化をめざす際には、マーケティングを行いターゲットを方向付けた方が良く考える。

・ 内陸からの観光客を「三陸ジオパーク」認定の沿岸部への誘導が必要。

【教育文化基盤について】

・ 子供が遊べる場所やスポーツができる場所の早期の整備、設置を求める。
・ 町特有の自然財産を生かし共生

することが、人口流出の緩和や、交

流人口の拡大に有効である。

・ 学生の間起業家を育成できるような仕組みをつくる。大槌は食資源が豊富なことから、食を学ぶ学校のようなものがあつたらよい。漁師や農家などが先生となり、生産の現場から商品のブランディングまで学べる場も有効である。

【新しいまちの姿について】

・ 中心市街地を浸水域である町方に再生するのはなぜか。後世のために浸水域にまちを再生すべきではない。浸水の心配がなく、今後、人口増加が見込まれる寺野や沢山地区が妥当ではないか。

【計画全般について】

・ 一部の声の大きい方や地域の権力者に左右されない心を示すべき。それが町の復興を加速させることにつながり、町外の人を惹き付ける一番の肝にもなると思う。

第4回復興戦略会議

第4回復興戦略会議では、住民フォーラムを経て改定された素案に基づき議論が交わされました。委員からは「この町はこうしますという柱、町としての意志が欲しい」「医師確保の対策を」「厳しい現状を町民に知らせるのも大事」「四つの基盤の

A: もともとの土地の所有者の方々には、土地は手放したくないという方、希望者に売却してもいいという方、とさまざまなので、ご意向をきちんと聞いて対応して行く。町としては土地利用全体の大きなビジョンがまだ整っていない状況であり、ある程度の方向性が決まってから情報提供していきたい。



住民フォーラムには約50名の住民が参加しました

パブリックコメント

町では1月25日から2月9日までパブリックコメントを実施しまし

うち行政が不得手なのは経済産業基盤。税収を見込むにはここがつかかりしていないと」などの意見が出されました。傍聴者からは「資料を読んだところでは計画はまとまっていると思う。ただ、漁業関係者の意見がもう少し聞きたかった」「計画は、行政の人たちの間で読まれるならこれでいいと思うが、一般の町民が読むということになると少し文章をかみ砕いた方がわかりやすいのではないか」といった声が聞かれました。



計画改定に向けて最後の議論の場となった復興戦略会議